

要書

事業名	東日本大震災追悼イベント「100 万人の線香花火ナイト」～線香花火に祈りを託す、追悼と記憶の継承プロジェクト～				
開始日	2026 年 2 月 19 日	終了日	2026 年 4 月 30 日	日数	71 日
団体名	100 万人の線香花火ナイト実行委員会（希望の光プロジェクト）				
（カウンターパート）	特定非営利活動法人 RAY of HOPE				
担当者名	魚山 宏	事務局スタッフ人数	2 人		

事業費総額（税込）	508,000 円
CF 事業枠	500,000 円
その他資金	8,000 円

事業目的	線香花火ナイトを実施し、それぞれの場所から震災や犠牲者に思いを寄せ、静かに祈る機会を提供することを目的とし、震災から 15 年を迎える今だからこそ「忘れている」という思いを形にして追悼の文化を未来へとつないでいく。また、この取り組みを継続するため広報ツールを強化しより多くの人に活動の意義を伝え、資金調達の可能性を広げる。
事業全体の概要	● 100 万人の線香花火ナイト実行委員会とは 「100 万人の線香花火ナイト実行委員会」は、東日本大震災の記憶を風化させず、未来の命を守るために生まれた市民団体。運営母体は震災の経験と遺族の思いを原動力に、震災の記憶を後世に伝え、命の大切さを啓発する震災伝承を主な事業として取り組んでいる NPO 法人 RAY of HOPE である。 「100 万人の線香花火ナイト実行委員会」の活動の中心はとてもシンプルで、星の見える場所で線香花火を灯し、大切な人や亡くなった方へ想いを届けること。「忘れているよ」「大切だよ」という気持ちを、言葉にしても、心の中だけで伝えてもよい。小さな灯りが、悲しみに寄り添い、心をそっと結び直す時間をつくっていく。 この取り組みの原点には、「将来、子どもたちに“なぜ 3 月 11 日に線香花火をするの？”と聞かれたとき、震災のこと、津波の怖さ、命の尊さを語り継げる風習になったらいい」という想いがある。実行委員会が目指すのは一度きりのイベントではなく、100 年後、200 年後にも続く“新しい追悼の風習”として線香花火を残し、防災意識を自然に受け渡していくことである。そしてこの活動が長く続いている最大の理由は、多くのボランティアや支援者に支えられ、地域の枠を越えて広がっている点にある。参加は全国どこからでも可能で、SNS での発信、ポスター掲示、封入作業、地域開催など、一人ひとりが今いる場所から関わることができるからである。支援者は「共繋者（きょうけいしゃ）」と呼ばれ、受け取った線香花火を大切な人へ手渡し、想いを繋いでいく存在だ。受け身の“ファン”ではなく、共に未来へ繋ぐ“主催者のひとり”として関わることができる仕組みこそ、この活動の強さである。 ●取り組むべき課題 東日本大震災から年月が経過する中で、震災の記憶の風化が進んでいる。一方で、被災地を離れて暮らす人や、震災を直接経験していない世代にとって、追悼や記憶の継承に関わるきっかけは限られている。また、線香花火ナイトのような「祈り」や「想い」を中心とした取り組みは、成果の数値化や可視化が難しく、助成金の対象になりにくいという課題を抱えている。参加者にハッシュタグをつ

けて発信してもらい取り組みも行ったが、一部 SNS の仕様変更によりハッシュタグでの検索ができなくなるなど、正確な参加者数を追うことが難しくなっている。どれだけの人が参加し取り組みが広がっているのかを確認することは継続のための施策を検討する上で重要だが、現状どのような形なら確認ができるかを模索している段階である。ただ、継続的な開催を実現するためには、助成金のみに依存しない資金調達の仕組みづくりが不可欠である。加えて、この取り組みを今後引き継いでいく人材を育成していかなければならないが、現状ではコアメンバーの中に若者はいない状況である。

この課題に対応するためには、活動の意義や価値を丁寧に伝え、共感を広げていくための広報ツールの強化、特にホームページを中心とした情報発信基盤の整備が急務となっている。取り組み自体は線香花火といういわば「映える」ものであるため、発信の仕方によっては若者の興味関心を引くことも可能であると考え。入口はどこであっても、まずは関心を持ってもらうところからスタートしていかなければならない。そのために、広報ツールの強化と同時に発信方法を工夫することで、若い世代にリーチしていきたいと考えている。

●パートナー協働プログラム対象事業

○コンポーネント①線香花火ナイトの実施

東日本大震災の犠牲者追悼と被災地に思いを馳せるイベント「線香花火ナイト」を実施する。このイベントを実施するために必要なリーフレット（線香花火とセットで配布するもの）とポスターの制作を行う。線香花火とリーフレットのセットは 8,000 セット用意し、支援者を通じて希望者に配布する。

*開催日：2026 年 3 月 11 日（水）

*場所：参加者のいるところ

*対象：関心のある方なら誰でも

*告知方法：HP や SNS での発信、ポスターの掲示、支援者を通じチラシと線香花火のセットを配布

*参加方法：参加方法は簡単です。星の見える場所で線香花火を灯し、大切な人や亡くなった方へ「忘れてないよ」と心で語りかける

*線香花火セット配布予定数：8,000 枚

*告知開始時期： 2 月

○コンポーネント②広報ツールのブラッシュアップ・強化

この取り組みを継続していくためには、助成金以外の資金を調達する必要がある。しかし裨益者の顔が見えづらく成果が数値化できない取り組みであるがゆえに、取り組みの様子がより視覚的に伝わるものが必要である。そこで、既存のホームページを大幅に改修し、広報の見直しも行うことで広報力の強化に取り組む。

*ホームページ改修の具体的内容：現在のホームページの内容を整理し、訪問者がより活動内容が理解しやすい内容を目指す。予定している改修作業内容は以下のとおりである。

- ・メニューの整理
- ・バナーのデザイン統一

また、メニュー整理後の各ページの具体的な内容は

- ・線香花火ナイトのコンセプト
- ・活動の歴史などの統合
- ・「共繋者（きょうけいしゃ）」についての案内ページ
- ・企業の寄付についてのページ
- ・年間の活動についての報告

	・各 SNS のリンク ・サポート団体の紹介 ・これまでのポスター、カレンダーなどのギャラリー 等 上記のような形を計画している。情報が整理され、取り組みの様子が可視化されることで共感を生むとともに、共に活動してくれる仲間の呼び込みにも期待したい。 ＊作業期間：2026 年 2 月～2026 年 4 月末 ●期待される効果 ・日本全国、世界各地から多様な立場の人々が、それぞれの場所で震災に思いを寄せる機会が生まれる ・被災地を離れた人にとっても、震災とのつながりを再確認するきっかけとなる ・「忘れていない」というメッセージを、被災地の人々へ静かに届けることができる ・他の災害においても応用可能な、場所に依存しない追悼イベントのモデルが蓄積される ・広報ツールの整備及び強化により、共感者・支援者の裾野が広がり、持続的な運営体制の構築につながる ●今後の展望 線香花火ナイトで培ったノウハウは、東日本大震災に限らず、今後起こりうる災害や、他地域での追悼・記憶継承の取り組みにも応用することが可能である。長く続けることで、「被災地を忘れていない」「思いを寄せ続けている」というメッセージを社会に伝え続ける存在となることを目指す。そのためにも、本事業を通じ広報ツールを再整備して発信力を強化することで、次の 10 年、20 年へとつなげていく。 また、今後の資金調達方法としてオリジナルグッズの製作・販売や、企業とのコラボ商品などの販売を考えている。
事業内容(事業種別（コンポーネント）ごと)	裨益者（誰が、何人）
○コンポーネント①線香花火ナイトの実施 ・線香花火ナイトの広報用リーフレット、ポスターの制作 ・線香花火ナイトの実施 -開催日：2026 年 3 月 11 日 -告知開始日：2026 年 2 月～ -線香花火セット配布予定数：8,000 枚	【直接裨益者】 1,000 人（線香花火ナイト参加者） 【間接裨益者】 8,000 人 （リーフレットを手にした人）
○コンポーネント②広報ツールのブラッシュアップ・強化 ・ホームページの改修 -作業期間：2026 年 2 月～2026 年 4 月末 -作業内容：①メニューの整理 ②バナーデザインの統一 ③各ページ内容の改修	【直接裨益者】 1,000 人 【間接裨益者】 8,000 人